

第2回 砂川市立小中学校適正配置計画検討委員会 会議記録

○日 時 令和元年8月30日(金) 18:00~20:05 (所要時間2時間5分)

○会 場 砂川市公民館 第2研修室

○出席者 【検討委員】 18人 ※欠席 2人

【事務局】 8人 教育次長、学務課長、社会教育課長、学校給食センター所長、学務課指導主事、学務課長補佐(3人)

○傍聴者 2名 (40代男性1名、70代男性1名)

○議事記録(次第)

1. 開 会

2. 挨拶 (討委員会会長)

3. 協議事項

・適正配置計画の策定例(基本方針に基づく「考察資料」)について

【議事の内容(要旨)】

協議事項について事務局より資料に基づいて説明

会長 ただ今の説明について、或いは事前配布されているこの資料の内容に関して、ご質問や意見などがあればどうぞ。

委員 小中一貫というと小学校と中学校が隣接してあると思っていたが、義務教育学校をとする場合、新たにまた建てるのか、或いは砂中が人数的に対応できるのであれば、そうするのか、その辺が校舎の使い方としてイメージが沸かない。

事務局 義務教育学校と小中一貫型小中学校はどちらも同じ小中一貫教育で教育課程など基本的に大きな違いはない。特徴的なのは、義務教育学校は1人の校長で校舎も一体的な施設であるのに対し、小中一貫型小中学校は小中学校それぞれに校長がおり、校舎も一つである必要はないとする点である。小中一貫型小中学校は学校間の距離は別として小学校と中学校がそれぞれある状態での一貫教育となる。

ただ、小中一貫教育を進める上では、学校間の距離によるデメリットもあるため、遠く離れた状態では運用はなかなか難しいかもしれない。

砂中を活用した義務教育学校は可能かという質問については、将来的な児童生徒数にもよるが、既存の校舎のままでは厳しい。児童生徒数が減少傾向にあるとしても、中学校の施設規模は3学年であるのに対し、ここに小学校6学年を加えるというのは、無理な状況と考えられる。

- 委員 1校とする場合、子どもたちの数から受け入れ可能な規模は砂小だけだから、校舎は砂小だとしていると思うが、砂川小学校も決して新しい校舎ではないので、それを利用するのはどうなのか疑問に思う。
- 砂川中学校を利用するのであれば、砂川中学校の近くに小学校を併設すれば一番無難かと思ったが、義務教育学校となると、全く新たな学校をどこかに作る話しになると思うので、そうなるともた難しい問題だ。
- 委員 前回、義務教育学校が最終的な形として将来的に考えられるとしながらも、急にそこへ行くのは大変だと思い、まずは小中一貫校の方でという話しをした。
- しかし、このような資料を見ると改めて義務教育学校に向うべきか考えてしまう。検討・計画の期間が10年あるとしても、その10年間で新校舎を建てる余裕があるのか、または砂川中学校の校舎をベースにしながら、空いているスペースに増設するなど併設的な措置をして義務教育学校として設置できるのかどうか、その点で考え方も変わってくる。
- 例えば、小中一貫校を目指すとしたら、校舎を隣接させるのが一番良いと思う。今の砂川小学校と砂川中学校の校舎のままでも、小中一貫教育はできるが、少し距離的に離れている。予算のことを考えると、どこまで意見をしていいのか難しいところもあるが、教育委員会がそこまで考えているとなれば、それを検討の材料にすれば良いのではないか。
- 会長 今の意見から、事務局、義務教育学校の可能性はどうか。
- 事務局 義務教育学校は小中一貫教育の究極的な形である。このため、小中一貫教育を推進する上では、義務教育学校を目指すというのは当然あり得るし、その考え方は大事なことで認識している。ただ、設置場所や費用など物理的な課題などから、簡単に結論付けることは難しい部分もある。
- 砂中を利用して義務教育学校を目指すとなれば、当然に増築は必要であり、まずは小中一貫校をとするならば、小学校を中学校の隣接地に新たに建設して、将来的に渡り廊下で結ぶといった手法も可能かどうか考える必要があると思われる。
- なお、本州にある市の例では、小中一貫教育の円滑な推進を図るために、関係する小・中学校を全て隣接または併設させたとの情報もあり、小中一貫教育を効果的に進める上では、やはり、施設は一体若しくは隣接が望ましいと考える。
- 委員 小中一貫教育を実施するのであれば義務教育学校がベストである。予算の関係等でそれができないのであれば、小中併設させるとかなるべく近いところ、廊下で結べるような施設環境が必要だ。現在の砂中と砂小での小中一貫教育は距離の問題から、非常に無理があると思う。
- 小中一貫教育とは、小学校6年間と中学校3年間の義務教育を合わせた9年間の教育課程を作ること。小学校1年生の時に15歳時にはこういう姿になって欲しいという取り組みをするのが基本的な考えである。
- それをするためには、やはり施設が一つの方がベストだと思う。例えば、今、小学校5・6年生の英語・外国語教育に対して、中学校の専科の先生が小学校へ行き英語の授業を教えることも可能になる。それが学校間の距離が遠ければ難しくなってしまう。また、小中一貫教育は、小中学校の先生が互いに教科の流れを知ることができ、授業の連携や改善をするきっかけにもなり、教員の資質向上にも繋がるとして、非常にメリットのあるものと考えている。

委員 小中一貫教育のあり方や運営に関して今程発言があったが、学校間の距離は別にして、子どもたちにとっての教育の質や環境の違いはどういったものか。

事務局 子どもたちにとって、小中一貫教育を実施する方が色々な意味でメリットが大きいと言われている。その中で施設を併設すると色々なことが可能になってくる。子どもたちが“こういうことが経験できる”“こういった機会が得られる”というような可能性が広がるという点で、施設を隣接させた小中一貫教育、或いはその先の義務教育学校であれば、そういうメリットはより確保しやすくなる。

委員 小中一貫教育の中に一貫型学校と義務教育学校があるということだが、行く行くは義務教育学校を目指すということを前提とするならば、一貫型の小中学校を選択するのは遠回りのような気がする。

ただ、真っ直ぐ義務教育学校に向かうというのは施設の問題であったり、色々と課題も多いとは思う。義務教育学校の場合、砂中を増築するか、一体型の新校舎建設の2択しかないと思うが、現実としてそれらの可能性はあるのか。

事務局 現行の学校施設の規模では、いずれの選択にせよハード面で大きな課題がある。小中一貫教育の円滑な実施を図るため小中学校は隣接させる方が望ましいとすれば、どちらかが寄って行くということになるので、当然に施設面の課題は生じる。

ハード面という大きな課題から、現時点でははっきり申し上げることは難しいが、ただ、小中一貫教育は来年、再来年とかに直ぐできるものではないため、実現を目指すのであれば、事業推進を遅延させないためにも、計画にはしっかり明記することは必要と考える。

委員 先程から小中一貫教育の話が出ているが、この資料を見る限り、小中学校それぞれを考えるとより、一貫教育を進めるように受け取れる気がする。

今までの小学校と中学校とが分かれた義務教育は、それはそれでメリットはあったと思う。最近の小中一貫教育が推奨されてきているのは理解するが疑問も感じる。小中一貫教育の背景や経緯がどのようなものだったのか、そこに合点がなければ、それでもう進んでいって良いとは思いますが。

事務局 小中一貫教育の背景については、中学校1年生でいう中1ギャップ、不登校の問題やいじめの問題、学習面を含めた色々な課題がある一方で、子どもが少なくなる中で地域の子どもを地域みんなで育てていこうとする流れがあった。

そういう意味で小中学校とも互いにより協力しようとなり、その中で、小中一貫の形ができて、連携しながら9年間、地域で子どもを育てようとなった。

これが小中連携から小中一貫になり、そしてそれをさらに発展させた義務教育学校の仕組みが生まれてきたという流れであり、文部科学省もメリットがあるとして、小中一貫の教育形態を認めている状況にある。

委員 背景としては人口減少に伴って子どもの数も減ってきたから、小中一貫教育の方が良かったというところか。過疎化が進む地域がその手法にマッチングして、その中で、それを推奨するような声が高まってきたと。

事務局 全てではないが、そう考えても良いかと。加えて1人1人の子どもを大事に育てようとする流れがあり、このような形態が徐々に推進されてきたと思われる。

委員 もう一つ付け加えると、今の中学生は思春期が我々の時代より2年ぐらい早まっている。昔は中学2年生ぐらいで見受けられた態度・様子などが、今は小学6年生ぐらいで見られる。精神年齢や身体は2年ぐらい成長が早まっている感じだ。そういう中で、今の6・3制が子どもたちにとって本当に良い制度なのか。一貫教育、義務教育学校にすると、4・3・2制とか子どもたちの成長に合わせて区切ることが可能になるため、そういった点も制度の広がりを見せる要因だと思う。

委員 小中一貫教育の話が進んでいるが、話しを原点に戻して、小学校は果たして何校にすべきなのか、中学校は統合すべきか否かという議論が必要なのでは。それがないままいきなり小中一貫教育というのはいかがかと思う。学校の数を何校にするという議論を先にすべきではないかと思うが。その次の段階で、小中一貫教育をどう推進していくのかということになるではないか。

事務局 学校の適正配置の考え方については色々な方向がある。基本方針では、国の基準を基本にして学校規模の適正化を図ることを主体的に整理しているが、適正配置の検討は、その他、通学距離を優先させて学校を配置する考え方や、小中一貫教育の円滑な導入を考えて適正配置を図るなどのケースもある。

 例えば、砂川市では、現在、学校規模は基準を満たしていないが、通学距離では小学校で概ね4km圏内、中学校で概ね6km圏内と、おおよそ適正な配置になっている。つまり、通学距離、通学時間を優先して学校を配置するとすれば、現時点において既に適正な配置にあることになる。

委員 参考資料に幾つかパターンが示されているが、もうA案しかないのでは。
 1学年複数の学級を確保するには1校しかないと思うが。
 私の中では、小学校1校、中学校1校とする以外はない。

委員 私も同じ考え。やはり、親としての要望もクラス替えができない学校では可哀想ということで学校は一つだとなっている。そして、一つになるなら一貫教育がいいと。今一番考えられる近道というか可能な道としては、小学校を一つにして、校舎をできるだけ中学校の近くに置くというのが良いと思う。

 この間の会議の雰囲気では、小学校を一つにする以外はないと感じるが。

 義務教育学校には恐らく莫大な費用が必要なので、それを目指しつつとして、新しい小学校を中学校の近くに作ることも良いのではと考えている。

会長 これまで、小中一貫教育や義務教育学校の関係について多くの意見が出されているが、基本方針によれば、児童生徒数の減少からどう適正な規模にするかという点でこの適正配置の議論が始まったとしている。

 この原点と言うか、ここに戻って、学校規模をどうするか、どのように集約するかという点においてまずは整理してはと考えるが。

委員 小学校を一つにすると、参観日とか親も沢山来るようになる。このため、一つにする場合は広い駐車場が必要だと思う。子どもだけが入ればOKというのは違うと思う。また、実際に4kmも歩いてその後勉強できるのかって疑問も感じる。同じ4kmでも6年生と1年生では違うと思うし、4kmもって考えると親も心配で、送迎も増えると思う。一つとしたら砂小しか規模的に収まらない話しも出ているが、車を停めるところも少なく、そのことも考慮して校舎のことは考えて欲しい。

- 会長 今の意見では、学校の集約、統合についてはどのようにお考えか。
- 委員 統合については賛成である。統合ありきだと思って会議に参加している。
 クラス替えができる環境だと当然に切磋琢磨できるし、学力も向上していくと
 考えている。同じ学級のまま6年間過ごすより、クラス替えできる方が子どもに
 とっても良いと思う。そしてできれば小中一貫教育をと考えている。小中一貫教
 育の方が、親も9年間、学校教育に携われるかなと思う。
- 委員 何を前提としてこの会を進めていくかという話しがあったが、私の意見として
 は、前回のとおりに、一つしかないのかなと思っている。
 また、予算などの関係については私たちが考えることではないと思っている。
 将来砂川を支えていくのは誰なのかって考えたときに、今、小中学校に通って
 いる子どもたち、となると、子どもたちに対しどういう教育を施し、育てていく
 かということ的前提を考えて検討を進める方が、この会がいい方向に進むのでは
 ないか。
 子どもが良い大人になることを考えると、義務教育学校がいいと思う。
 一つの校舎であれば、小学1年生などはお手本となるお兄さんたちを見て育ち、
 逆に中学3年生などは、お手本にならなければいけないと思う気持ちになり、そ
 のことがとても大事だと思う。例えば、小さい子に見られている、そんな意識が、
 いじめの防止にもなるとも考えられる。一つの校舎で凄く歳の離れた子どもたち
 が生活するというのは、メリットしかないと考えている。
 いずれにせよ、子どもファーストで考えた方がこの検討委員会が良い方向へ進
 んでいくのかなと思う。
- 会長 子どもの成長を第一に考えると、義務教育学校は魅力だというお考えか。
- 委員 そのとおり。どう考えてもメリットしかないのかなと。
- 委員 将来スクールバスを利用することとなって、仮にバスに乗り遅れた場合、仕事
 が滝川とかだと送っていくのもしんどいかなと。そういうことを考えたら、例え
 ばある程度、きちんと登校できる小学3年生までは学校は分かれたままとして、
 4年生以降は統合した学校に編入するみたいな方法は考えられるものなのか。
- 委員 中学校を1校に小学校を1校にした場合にスクールバスを出すという方法で
 良いのではないのか。
- 事務局 小学生を学年で違う学校に分けることは、はっきり申し上げて無理である。
 バスに遅れた場合、送るのが大変だというのは確かにそうかもしれないが、学
 校統合を進めていく上では、学校が遠くなってそのようなケースもあるというこ
 とで理解いただきたい。
- 委員 砂川市民で他市町村の学校に通うというのは可能なのか。
- 事務局 義務教育については通学区域の定めがあり、その通学区域にある学校に行くこ
 というのが基本だが、例外的な規定で区域外通学というものもある。

- 委員 砂川小へ統合という話しもあり、そうすると空知太小学校の子は、滝川市の小学校へ通うこともあるのかなと考えたもので。
- 事務局 例外の中に、学校が遠いからというものはない。
例外とは、いじめ等の問題で、どうしても今の学校に通うことが困難と認められるときだとか、卒業まで僅かという時に、引っ越しで通学区域が変わってしまったといったケースなどである。
- 会長 多々ご質問もあるかと思うが、これからの議論の進め方として、学校規模をどうするか、資料に幾つかの例も示されており、1校にするのか2校にするのか、そこをしっかりと決めてから中身について深く議論をしてはいかがか。
- 委員 進め方とは少し違うかもしれないが、資料にある今後の児童生徒数の予測数値と、別に添付してある人口の推移予測はリンクしているのか。
- 事務局 結論から言うとリンクはしていない。1枚物の資料は、従前、砂川市で人口ビジョンとして示したものをそのまま転記しただけのもので、議案にある数値は、本年3月末時点において住民基本台帳で実際に数えた子どもの数がベースとなっており、これに出生から小学校入学或いは中学校入学まで、転出・転入など、過去の増減傾向を加味して、予想値を算出している。
- 委員 人口のグラフの曲線だが、議案の数値の方がもっと下がる、ビジョンより減る可能性があるのか。それとも概ね同じ傾向か。
- 事務局 恐らく、双方グラフの線を比較すると違う角度になると思う。議案には総体的な人口はないため、この部分は何とも言い難いが、14歳以下では、ビジョンで示す数値より大きく減少している傾向にあるため、議案にある数値をグラフにすると、ビジョンのグラフより急角度になると思う。
一つ情報として付け加えると、30年度に誕生して砂川市民となった子どもは、年度末の時点では確か77人であった。届け出自体は86件あったと記憶しているが、その内、年度末に0歳児の市民、つまり0歳の子どもを数えたら77人ということで、単純に申せば全員一緒でも基本2学級の規模でしかない。
- 会長 5ページに一つの試案として、小学校1校にという記述があるが、これについて、どう思うか。
- 委員 私は1校じゃなくて、2校がいいと思っている。
資料のCのパターンのとおり、砂小と豊小を1校にして、中央・北光・空知太小を1校にする方がいいと思う。
- 会長 ただ今の意見について事務局としてどうか。
- 事務局 事務局としては、あくまで基本方針に照らして学校規模を考えたらこうなるというものを示したものであり、資料にあるとおりAからDの4つパターンを始めどれが望ましいとするかは、この場でご協議いただきたいと考えている。

- 委員 資料は絶対ではないと説明があったが、小学校は1校に集約することが基本と考えられるという記述があり、5校を1校に統合する場合は、計画は10年間となっているが、何年後にこうだというビジョンとかはあるのか。
- 事務局 学校の統合に関しては、保護者や地域の理解が必要と考えているので、議論等どの程度の時間を要するか、またハード面の整備の内容によっても完了時期は大きく差が出てくると思う。他市町の例で一つ言えるのは、統合計画を立てて、統合を始めると実施段階に移ってから2・3年を要している。さらに、学校を新しく建てる、或いは既設校舎の改修などがあればもっと時間を要することにはなる。
- 委員 この議論は確か5回だったと思うが、それで大丈夫か。
- 会長 あくまで、5回は予定であり、議論に多くの時間が必要となれば、それは回数を増やしていくこととなる。
- 委員 小学校を1校とした場合ではなく、2校にした場合にそれぞれが義務教育学校として一貫教育をするというのはできないものか。義務教育学校はとても魅力的であり、教育課程においてもメリットが多いようなので、その方向が良いと思っている。小学校が2つになっても、2つの義務教育学校とすることは可能なのか。
- 事務局 義務教育学校を2つ設置することが可能かどうかということでは可能である。施設規模等の物理的なことは置いといて、石山中学校と砂川中学校をそれぞれ義務教育学校にするということは可能。
ただ、この場合、いずれも学校規模は適正な範囲にはならず、義務教育学校の形態を成す以前に、基本方針が掲げる学校規模の適正化が図られない状況、1学年1学級の状況となる。このため、この手法では多様な学習機会や対話的な学習、切磋琢磨できる環境の確保や部活動数の減少等の課題解決は難しくなると思う。
- 会長 今程の1校ではなく2校にした方が良いとする意見の理由は何か。
- 委員 スクールバスを運行した場合、何かしら用事があるとかで、下校する時間は皆一緒ではないと考える。つまり、下校時間がバラバラなため、スクールバスが利用しない・できない状況を考えると通学する距離や時間はなるべく短く、少なくするように幾つかの学校で分散した方が良いのではと思ったためである。
- 委員 私は1校でいいのかなと思っている。
今程の意見は理解できるが、2校にしても、2年・3年後とかにどうせ1校にするなら1校でいいのかなと。実際、砂川もスクールバスがないからイメージも難しいと思う。スクールバスを運行している近隣市町とかからメリット、デメリットというのは、聞いたりできないものか。
- 事務局 以前、管内の幾つかの市町に対しスクールバスの運行に関して照会したことがある。特別にメリットがあるという話しはなかったが、運行に関するデメリットもなかった。ただ確認した話しの中には、「子どもたちの安全確保という点ではメリットである。」「停留所によっては歩く距離が少なくなり、“通学は体力増強を考慮”という点で課題がある」というのはあった。

委員 仮に統合により、空知太小学校と石山中学校が閉校となった場合、児童のスクールバスの乗車は、自宅が石山中学校に近くても、空知太小学校を利用しなければならないのか。資料ではそのように受け取れるが。

その辺は臨機応変に考えていただきたい。スクールバス運行の適正化も図るべきであり、その方が保護者も安心すると思う。

事務局 資料は、基本方針及び一般的な基準に沿って通学による体力増強も考えて記載しているが、この部分も内容について検討・協議をいただきたい事項としている。

ただ、石山中学校が近くにある児童が空知太小学校からバスに乗るような、非合理的なことは避けるべきだとは思っている。

会長 色々と意見もあるようだが、次回までにこのような資料を用意して欲しい等の要望などはどうか。

委員 今更だが、今日の協議において何の答えを求めるのかというのがよく分からない。その要因は、方向性がないからとも思う。統合に向かって話しが進んでいるのか、統合しないとするのか、先ずはどちらかだと思ふ。統合するのであれば一体型の義務教育学校という意見もあり、協議一つ一つにどんな答えを求めるかがあれば良いかと思う。

会長 現段階で、答えとしてこの一つしかないとするのは難しいかもしれない。適正配置により学校集約はするとしても1校なのか2校なのか、事務局で示した案もあるが、色々条件などもあると思うので先ずは議論を深めていただきたいと思う。数値的に見れば1校に集約となるかもしれないが、通学に関する意見もあり、色々な議論をもって考え方がまとまればと考えている。

委員 方向性が一つではないとしたら、何に向かって議論をしていけば良いのかという感じがする。一貫教育がゴールなのかなという感じもあるが。

委員 学校は統合する方向で先ずは良いと思う。

1回目のときに統合したいという話しが実際にお母さん方から出て驚いた。

ひと昔であれば逆に統合をしないで欲しいとか、地域の事情等があったと思うけど、お母さん方が「統合ありき」という発言をされていて、時代が変わった印象を受けた。そのことを含め、1校でなければ2クラスが確保できない現状について皆さんはどう思われているか。その確認をもって、この会の方向性をという気がするが。

委員 今日の検討の中で大きく2つ感じたことがある。一つは統合が必要なこと。もう一つは義務教育学校が凄くいいという新しい情報だった。義務教育学校を2つ作ればという意見があったが、私もそう思っていた。その場合、2クラス確保は難しいという話のだが、では全部1校にまとめて義務教育学校はできるのか。できるのであれば、もうその話しで進めていくというのが、今日の結論、方向性になると思う。

距離的なバスの問題があるとするならば、1校の場合と2校の場合の比較を次回までに示していただければ話しも進めやすいとも思う。

委員 2つに分けると、子どもたちは1年生から6年生までずっと同じクラスのまま
で、それが教育として良いのかってことになる。

お母さん方が言われるように、クラス替えができ、色々な子どもたちと接しな
がら成長する姿を期待するのであれば、やはり1校しかないと思う。

委員 最終的には義務教育学校がいいというのは皆あると思う。であれば、義務教育
学校ができる方法で考えて進めていくことが重要ではないか。どんな形であれ、
最終的に3年後でも10年後でも、砂川は義務教育学校をしたい、そこに近づいて
いくために、今の段階ではこうするという、そういう進め方はできないか。

そうなると、やはり、小学校と中学校はともに1校なのかなと思うし、そして
その場所をどうするかという議論が大事だと思う。

会長 今、少し具体的な意見があったが、これについてはどうか。

委員 周りの保護者を見ていると、子どもが小学校に上がるタイミングで、転出する
方も少なくないと感じる。子どもたちが他所に行く理由は、やはりニュースとか
で見るような魅力的な学校に行くためとすることが多いように思う。子どもたち
のことを想うと、特徴のある学校を目指すと、義務教育学校をお膳立てする
ような話しの整理ができれば良いと考える。

特色ある学校づくりは、別組織で検討されることもあるかと思うが、そこで義
務教育学校の配置が本当にいいのか、義務教育学校を作るためには、こういう条
件があって、こういうやり方が良いみたいな資料が欲しい。

委員 小中一貫教育を進めていく、それしかない。それだけだと思う。

義務教育学校にいくまでに、学校を隣同士にして、一貫教育を徐々に推進させ、
いつでも義務教育学校になれるような形が良いと思う。

委員 義務教育学校のビジョンがこの会議の中で出てきて、それが5年後というのは
ないと思うが、10年後、15年後になるのか。そこを目指して行くうちに、一部の
小学校がもたなくなり、その前にどこかと統合しているのではないか。

そう考えたら、ステップとして、どこかの時点で小学校は先ず2つにしなければ
いけないと思う。一気に一つになればいいが、そこまで15年を要するとしたら
、考えなければならない。

委員 こういった将来的なビジョンは素晴らしいと思う。これから10年後に新生児が
誕生して小学校に通うとなれば、恐らく義務教育学校という形になっていると思
う。ただ、私の中では自分の子どもが少しでも早く良い学校環境の中で育てて欲
しいという想いがどうしてもある。一番大変な、10年も20年もかかるような方
向性を決めるよりは、少しでも早く良い学校のスタイルをと思っているので、で
きるところからステップを踏んで徐々に進めていければと考えている。

事務局 小中一貫教育を導入する前に一部学校がなくなるのではという質問につい
ては、例えば義務教育学校を開設するために準備が整うまで学校統合を遅らせる
という話しとは違う。そもそも学校の統合と義務教育学校は一緒のものではない。

どういう方向にもっていくか、切り口をどうするかという点においては、検討
委員会に示していただきたいと考えているが、それが学校統合と一貫教育を必ず

しも同時とする必要はない。

確かに時間の経過とともに、学校の縮小化も進行するかもしれないが、通学区に子どもがいるうちは、現にその地域に学校がある訳なので、いきなり一方的に閉校とはならない。

会長 最終的には子どもたちにとってより良い教育環境としてどういった形を目指すのかということでは、義務教育学校という意見が多数だと思う。このため現時点でできることは何か、段階を踏んで進むべきなのか、今後の進め方としてはこの点が論点になると思う。

意見もあつたように、先ず学校を集約して、それから小中一貫教育を進め、最終的には義務教育学校という段階を踏んだ構想でも良いのかという気はする。

その具体的な動きについては、この先も議論しておくこととなるが、その点についてどう考えているか。

委員 段階を踏むというのは、恐らく計画が頓挫すると思う。将来的には義務教育学校を作るんだとする目的、目標を立てるなら、それに向かって進めていくことが大切である。そのためには“教育委員会は何をしなければならい”とか、“施設ハード面の環境をどう整えるか”とか、意見を出し合い、その中で、段階としてとりあえず現校舎を活用するか新校舎を建てるべきだという議論にすべきではないか。

統合にはそれなりの費用も必要と考え、また一方で統合に伴う経費の合理化も図られるのではという思いもあるが、それらは市の財政の考え方によるものであって、ここで話し合う中身は、子どもの幸せのために理想的な形は何かという点をしっかり前を見据えて意見を出していくべきだと思う。

例えば先に2校・3校にと段階を踏むと、それだけで10年ぐらいかかる話なので、1校にするためにはどうしたらいいのかという考え方を皆さんで整理していくことが良いと思う。

会長 先の段階的と申したのは、例えば義務教育学校を目指すとするならば、それに向かってできること、すべきことを順番に進めていくということで、今の意見とは意味は同じ。それで、3年後とか直ぐに義務教育学校とはならないと思うので、一体的な施設はどうする、だとか、確実に到達が果たせるような、そういった議論ができればと考えている。

会長 皆様から他に発言は。事務局の方で何かあるか。

事務局 意見の中で、子どもファーストで考えるべきとする発言があつたが、やはり、基本方針にもあるとおり、そういった想いで検討が進み、計画が策定されていくことが理想であると考え。

適切な言い方ではないかもしれないが、本件には当然に事業費が伴う。それも状況によってはかなり大きな金額になることも考えられる。このため予算措置については効率性や合理的な部分も考えなくてはならないし、そう考えても財政的に事業の推進が困難となるケースもあるかもしれない。

ただ、そうであっても意見があつたとおり、この検討委員会の議論においては、子どもファーストで考え、整理すべきであると思う。この場では、予算のことを気に掛けて、本来の想いと違う結論を出すことはしない方が良いのではと考える。

予算も限りがあるため、計画の内容によっては財政状況から実現が難しいことも考えられるが、まずは子どもたちのことを考えて、“こうしたい”“こうあるべき”という意見が第一になれば、良い形には結び付いていかないと思うので、今後も忌憚のない意見・協議をお願いしたい。

それで、次回については、皆様から寄せられた意見を踏まえて、今回の資料をもう少し内容を濃く、深く整理したものを提示する。また、義務教育学校の内容が詳しく分かる資料、さらには1校・2校それぞれのパターンの段階予想も資料として用意するので、本日の議論をさらに発展させていただきたい。

それともう1点、スクールバスの関係で下校時間のことについて申し忘れがあったが、スクールバスを運行している市町村では、帰りのバスは部活動なども考慮し、子どもたちの帰宅時間に合わせて数便運行している状況にあり、スクールバスを利用する子に対して帰りの便がないということは基本的にはない。

会長 ただ今、事務局から次回の協議資料等についての発言があったが、この件に関して何か意見等はないか。

今日の協議においては、学校規模を選択するというのは難しいと思う。中身的にもう少し理解をして、熟慮する時間も必要かと思うので、次回に向けてまた準備等をいただき、その上でまた議論を交わすようお願いしたい。

会長 日程の最後、その他について、全体を通して何かご発言はないようなので、事務局どうぞ。

事務局 皆様、本日は粗末な資料でなかなか議論も難しかったのでは思い、先ずはお詫びを申し上げます。次回に向けてこういった資料を用意して欲しい等のご要望があれば、明日以降、随時、直接事務局までお申し付けいただきたい。

会長 他、特になければ、これにて本会を閉じたいと思うがよろしいか。それでは、以上をもって第2回検討委員会を終了とする。

4. その他（日程協議）

次回日程調整＝10月2日を第一候補として調整するよう決定・確認される。

以 上